

施設ミョウガにおける粘着トラップを用いた モトジロアザミウマのモニタリング(情報)

農業技術センター

〔背景・ねらい〕

高知県の重要品目のひとつである施設栽培ミョウガでは、モトジロアザミウマ(以下、モトジロ)による被害が問題となっている。本害虫に対して薬剤防除を行う場合、害虫の密度が低い時期に防除することが重要であるが、栽培後期には草丈がハウス天井部近くまで達するため、本害虫の発生を目視で確認することは困難である。

そこで、ミョウガに発生するモトジロをモニタリングするのに適した粘着トラップの色と設置方法を明らかにする。

〔技術の内容・特徴〕

1. 粘着トラップへのモトジロの誘殺数は、黄色に比べて青色が非常に多かった。また、青色粘着トラップでは、地上50cmに比べて180cmの方でモトジロの誘殺数が顕著に多かったが、黄色粘着トラップでは大差なかった(図1、2)。
2. APハウスおよび高軒高ハウスのミョウガとも、ミョウガ葉上でモトジロ成虫の密度が上昇してからやや遅れて、青色粘着トラップの誘殺数が増加した(図3)。

〔留意点〕

1. 粘着トラップはアリスタライフサイエンス社製(商品名：ホリバー)を用いた。
2. ハウスの谷部の鉄骨から、風糸またはビニタイで吊り下げて粘着トラップを設置した。

〔評 価〕

施設ミョウガにおけるモトジロのモニタリングに適した粘着トラップと設置方法が明らかとなり、防除指導の参考となる。

[具体的データ]

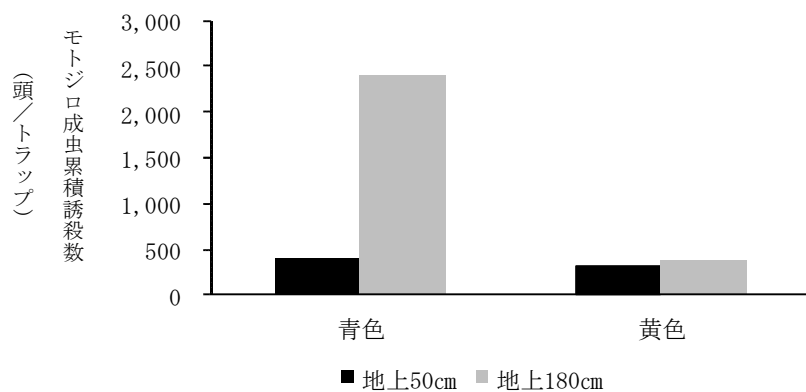


図1 粘着トラップへのモトジロアザミウマの誘殺数(2019)

- 注1) 試験ほ場：四万十町(面積6a)、APハウス、土耕栽培、定植日：2019年3月(抑制裁培)
 2) ほ場の2カ所に黄色および青色粘着トラップを、5月15日に地上約180cmの高さに、6月4日に地上約50cmの高さにそれぞれ1枚設置した。
 3) 粘着トラップは7～19日間隔で交換した。
 4) モトジロの誘殺数は2019年6月4日から2020年1月17日までの粘着トラップ1枚あたりの合計値

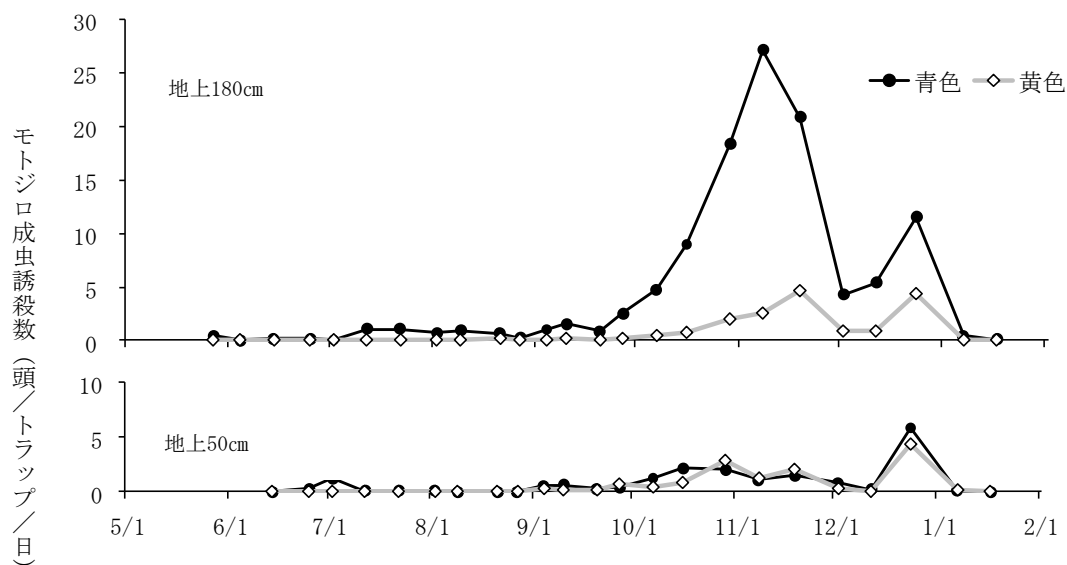


図2 粘着トラップへのモトジロアザミウマの誘殺数の推移(2019)

注) 耕種概要、粘着トラップの設置方法は図1に同じ。

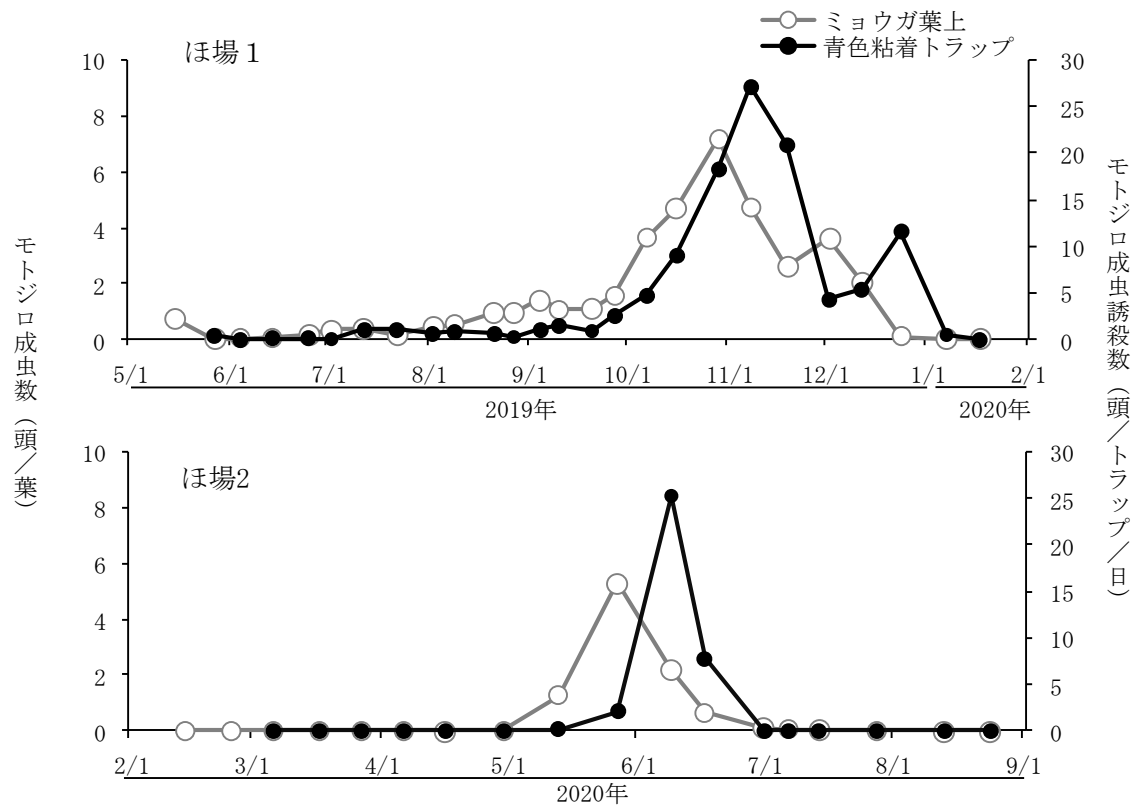


図3 ミョウガ葉上でのモトジロアザミウマの発生推移および
粘着トラップへの誘殺数の推移(2019)

- 注1) 耕種概要：試験ほ場1；四万十町(面積6a)、APハウス、土耕栽培、定植日：2019年3月
試験ほ場2；須崎市(面積22a)、高軒高ハウス、養液栽培、定植日：2019年11月
- 2) ほ場の2ヵ所に青色粘着トラップを、ほ場1では5月15日に、ほ場2では2020年2月25日に地表上約180cmの高さにそれぞれ1枚設置した。
- 3) ほ場1では任意のミョウガ40株(10株×4畝)について、ほ場2では任意のミョウガ50株(10株×5畝)について、株当たり上位葉1枚と中位葉1枚に生息するモトジロの成虫数を1～1週間感覚で肉眼で調査した。

[その他]

研究課題名：施設ミョウガにおける総合的害虫管理技術の確立

研究期間：平成30～令和2年度

予算区分：県単・国補(内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業)

研究担当：昆虫担当

分類：情報